

ウイメンズ ブックス

第72号

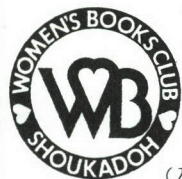
1999年

Women's Books

8月25日発行

女性の本の情報誌・ウイメンズブック友の会会報

ウイメンズブックストア
 発行所 有限会社 松香堂書店
 本社 〒604-0024 京都市中京区下妙覚寺町185-804
 土・日・祝日休み TEL 075-253-1860 FAX 253-1861
 天満橋店 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号
 ドーンセンター内



水曜定休・祝日代休あり
 TEL・FAX 06-6910-6115 TEL 06-6910-8627
 郵便振替口座 00900-5-309395

(入会金800円 年会費個人2,200円 団体及び海外会員3,000円)

このリストの書籍をご希望の方は、同封の振替用紙の通信欄でお申し込み下さい。書籍代は送料共でお振り込みくださいますようお願い致します。ご注文の本の定価の合計額に、下の表の送料を合わせてお送り下さい。なお、お電話でのご注文も受け付けています。

2,000円まで	400円
2,001円～4,000円まで	500円
4,001円～10,000円まで	600円
10,001円以上	700円

電話・Fax・お手紙等でのご注文は、天満橋店にお申しつけ下さい。本誌からの無断転載・コピーはお断りいたします。

Homepage: <http://www.nacos.com/shokado/>
 E-mail(ご注文専用) shokado@d1.dion.ne.jp

最新刊情報

女性学…P1 仕事…P2 法律…P3 家族・結婚…P4
 ころろ・癒し…P4 子育て…P5 からだ…P6
 セクシュアリティ…P6 セクハラ・暴力…P7 女性史…P7
 自伝・評伝…P8 高齢問題…P8 文学・エッセイ…P9
 その他…P10 資料…P10 雑誌…P10 文庫…P10



(ここに表示してある価格は、便宜上消費税5%を含んでいます)

〔フェミニズム・女性学〕

『〈新しい女たち〉の世紀末』

川本静子 みすず書房 1999年4月 3045円
 ヴィクトリア朝の女性支配のイデオロギーから、作家たちはいかに女性を解放したか。イギリス19世紀末の小説に登場した〈新しい女〉を分析、女たちの変貌の歴史と意義をたどる労作。

『新版 おもしろ男女共生の社会学』

森典子 上松由紀子 秋山憲治
 学文社 1999年4月 2730円
 男女の自立と共生の社会関係をみていくが、女性学の入門テキストとして作られたものか。一読すれば歴史から現状までザッと解るように工夫してある。

『現代日本女性の生き方』

ーシリーズ〈女・あすに生きる〉⑩
 山縣喜代 ミネルヴァ書房 1999年5月 2940円
 宗教的・心情的な意識調査から実際の日本人「女性」の生き方を明らかにしようと、女性研究者が試みた実証的な研究。宗教観の国際比較は興味深い。

『ジェンダーで社会政策をひらくーシリーズ〈女・あすに生きる〉』

⑩「男女共同参画」時代の社会政策』
 佛教大学総合研究所編
 ミネルヴァ書房
 1999年3月 1890円



労働、福祉、家族の各領域にわたって、ジェンダーの視点で理論動向を分析し、新しい社会政策の方向づけを考える。「職場のジェンダー問題と労働政策」(小松満貴子)「DVと社会政策」(戒能民江)は明快で納得できる。

『ジェンダーと「家」文化』

坂西友秀 社会評論社 1999年6月 2520円
 ジェンダーという新しい言葉では、「家」という頑強な意識はたちうち出来ない。聞きとりやルポ、絵本の分析など多岐に試みているが、資料や引用に引きずられて少々著者のホンネが伝わらないうらみがある。

『ジェンダーに関する自己概念の研究

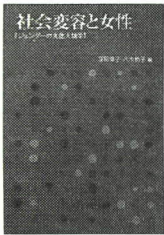
- 男性性・女性性の規定要因とその機能』

上肥伊都子 多賀出版 1999年2月 4830円
個人がジェンダーに関して社会化されると、その個人の自己の概念はどのように規定されるのか、またジェンダーが、役割達成感や役割行動にどの様に機能するかといった社会心理学的アプローチを試みた研究論文。

『新訂 ジェンダーの社会学

- 女と男の視点からみる現代日本社会』

江原由美子 山田昌弘 放送大学教育振興会
1999年3月 2100円
放送大学のテキスト用に作られているので、かみくだいた言葉と内容で読みやすい。意識調査やデータを駆使し、ジェンダーを切り口に、日本の今の、変わったようであらぬ男女の意識をあぶり出す。



『社会変容と女性

- ジェンダーの文化人類学』

窪田幸子 八木祐子

ナカニシヤ出版

1999年3月 2520円

モンゴル、北インド、バリ、ニュージーランドのマオリ、シンガポール、香港の女性への聞き取りを中心にフィールドワークを試みた論文集。近代から現代へ大きく変容する女性たちの生の声が伝わる。

『女性学 (改訂版)

- 人間らしく生きるために』

佐藤延子編

佐藤延子 森川幸江他

尚学社 1999年4月 2400円

性別役割分業、女性差別撤廃条約、労働問題や法律、結婚、育児、性など女性をとりまく問題の全てにわたって、解りやすく解説したテキストの改訂新版。



『女性・戦争・人権 2 - <特集> 戦争と性暴力』

「女性・戦争・人権」学会学会誌編集委員会

行路社 1999年5月 1890円

シンポジウム報告「戦争と性暴力」の、藤目、角田、志水の論議が充実。「天津の日本軍「慰安婦」供出システム」他この学会ならではの掘さげ方で力の入った論文揃いだ。

『日米女性フォーラム

- 女性の政治参画の拡大をめざして』

財団法人市川房枝記念会編

財団法人市川房枝記念会 1999年3月 1470円
98年8月に3日間かけて行われたフォーラムの全記録。アメリカから、日本中から女性政治家たちを招いて、活発な討論がされた。女性の政治への参画が社会を変えることがよく解る。

『自分らしい生活をつくる 家庭科ワークブック②』

牧野カツコ編著 国土社 1999年4月 2100円

家庭科の中でも衣食住の内容をとり上げ、健康、文化、ライフスタイルなどで構成されている。各々、コピーして使える配付用ページとねらい、すすめ方など先生用解説からできている。様々な学習に応用できる。

〔仕事〕

『カウンセラーの仕事 第2版』

三木善彦 黒木賢一編著

朱鷺書房 1999年3月 1680円

カウンセラーはどのような仕事をするのか、どうしたらカウンセラーになれるのか、病院、学校、公共団体などで活躍しているカウンセラーの仕事を紹介。

『ケアマネジャー
介護支援専門員になろう！』

- 介護保険制度の新しい資格を徹底紹介』

地域介護支援研究会 PHP研究所

1999年4月 1260円

介護保険の導入も近づいたが、介護支援専門員はこの制度の中心的割合を担うという。試験制度、出題の傾向と対策、仕事の内容などそのすべてを紹介。

『社会福祉の資格と仕事わかる本』

法学書院編集部 法学書院 1999年3月 1470円

福祉、介護、リハビリ系資格の総ガイドと就業記。手話通訳士、義肢装備士などのスペシャリスト資格、介護支援専門員などの新しい資格のガイドも。

『女性が5年働いたら読む本』

野原蓉子 実務教育出版 1999年7月 1365円

働いて5年目というのは、一つの岐路という。悩みをふっきるための150のアドバイス。

『女性のパートタイム労働

- 日本とヨーロッパの現状』

国際交流基金編 金谷千慧子 山田省三監修

新水社 1999年7月 2940円

1997年「日欧女性パート労働問題シンポジウム」(東京・大阪)の記録。パートタイマーの労働環境が日本と近いイギリス、フルタイムと同等の権利を持つドイツ、パートとフルタイムの垣根のないスウェーデン

からのゲストを迎えて討論。日本のパート賃金差別裁判の事例も。

『女性にやさしいインターネットの本』

井上はねこ CQ出版社 1999年5月 1575円
電子メールやホームページは難しくない。元初心者が体験をもとに書きおろした。キッチリと読めば、必ず出来る!

『SOHOは営業が命』

笠松ゆみ 東洋経済新報社 1999年6月 1470円
スモールオフィス・ホームオフィスを成功させるのは、営業活動にかかっている。チラシの撒き方から、打合せの仕方、見積りの出し方まで親切にアドバイス。技術があるだけでは起業できないことを知ることも必要。

『女性に有利な資格のカタログ 150』

一ツ橋書店編集部 一ツ橋書店 1999年3月 1050円
国家公務員、気象予報士、言語聴覚士、ツアコン、看護婦、デザイナーなど150の資格の説明と資格をとるための試験内容などの案内。通信教育のガイド付。

『新・ホームヘルパーのためのガイドブック』

一 援助計画の指針
石毛鏡子 大橋佳子
誠信書房 1999年5月 2100円
ホームヘルパーが、自分で介護をしている人のための援助計画をつくれるようガイドする。アセスメント、記録の仕方、ホームヘルプ援助計画書を作る、事後の評価に至るまで親切に書かれている。

『福祉の仕事オールガイド 2000年度版』

資格試験研究会 実務教育出版 1999年4月 1680円
福祉の職場・資格ガイド、福祉の学校一覧、就職のためのガイドまですべてがわかる総合ガイドブック。

『本気ではじめる』

パソコン在宅ワーク術—リニューアル版
笠松ゆみ 双葉社 1999年6月 1470円
パソコンで在宅ワークをするためのノウハウを懇切丁寧に教えてくれる。パソコンの買い方から営業の仕方、注意事項まで実に細やか!

『改訂版ワーキングウーマンハンドブック』

PHPエディターズ・グループ編
PHP研究所 1999年5月 1200円
仕事をするための最低限の知識と情報。すぐに役立つハンドブック。しかしこれが何故男女向けでないのか不思議。男は皆知っているというのかしら。

『ワーキングガールは浮かばれない』

デボラ・ギャリソン 白石公子訳
毎日新聞社 1999年6月 1260円
訳がいい。言葉のひとつひとつにうなづいて、うなづいて、ニヤリとする。正直で、知的で、ホロ苦い。NYのワーキングガールに話題の書というのが、帯の「全米絶賛の処女詩集」はいただけない。

〔法 律〕

『新しい法と自分らしい生き方』

—女性のための法律学
杉井静子 新日本出版社 1999年5月 1890円
改正均等法などを含めて、女性の生涯にかかわる法律を法文と共に大変わかりやすく解説している。座右に置かれることをおすすめ。

『あなたをパワーアップ 「季刊女も男も」別冊』

—改正均等法活用のポイント
中野麻美 池田芳江編著
労働教育センター 1999年4月 1575円
改正法の一つ一つを見ながら、女性たちが実際にすぐに活用できるように、読みやすく使いやすく編集されている。大いに活用して職場の差別をなくそう。

『均等法の新世界』

—二重基準から共通基準へ
浅倉むつ子 有斐閣
1999年6月 1785円
均等法が生まれたときから、今回の改正までを追うのと同時に、改正された均等法が実際の労働の現場をどう変えていくかを検討している。全条文、施行規則、通達、指針などの資料も役立つ。

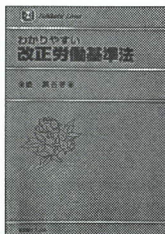


『国際人権法概論〔第二版〕』

畑博行 水上千之編 有信堂 1999年5月 3150円
「国際人権保障の基本概念」「国際人権条約が国内法制にもたらすインパクト」「外国人の人権」「国際人権保障制度」等、人権に対する国際的な基本ルールを説明する。人種差別撤廃条約を加えた最新版。

『わかりやすい改正労働基準法』

盛誠吾
有斐閣 1999年5月 992円
今年4月施行された労働基準法は戦後最大の改正だといわれている。Q&Aや資料を混え複雑な労基法を解りやすくコンパクトにまとめた。



〔家族・結婚〕

『家族の伝言』

毎日新聞社会部 毎日新聞社 1999年3月 1470円
毎日新聞に98年1月から連載され好評を博したシリーズが本になった。記者個人が、自分の生き方も重ね合せながら、家族の悩みや苦しみをすくい上げる。新聞の「客観報道」でないスタイルは新鮮だがセンチメンタルに過ぎるものも。

『家族だから』

介護なんかこわくない?』

久田恵

海竜社 1999年4月 1575円

家族に降ってくるあれこれの問題——車椅子の母の介護と高齢の父、息子の不登校。その渦中において、めげず、嘆かず、ユーモアをもって生きる著者のエッセー。いろいろあるけど心あたたまる家族論。



『健全離婚マニュアル —離婚をめぐる』

3つの課題と4つの原則、14のステップ』

クレイグ・エヴェレット&サンドラ・エヴェレット

矢羽野薫訳

ピアソン・エデュケーション 1999年6月 1890円

離婚はバツイチではなく、ハナマルの時代。健全離婚のための3つのポイント①結婚生活から解放され、相手を解放する②新しい社会関係を築く③親の役割を定義しなおすことだという。

『後悔しない離婚のすすめ方』

竹森裕子監修 池田書店 1999年6月 1365円

子どもの親権、養育費、財産分与、慰謝料、その後の生活など、データをつけて詳しく解説。

『「主夫」っていいかも —「男らしさ」の』

しがらみを超えて、気楽に元気に生きる本』

藤岡良 彩流社 1999年7月 1575円

妻より帰りの早い夫が家事をする方が効率的と家事を分担するオトコの話。家事をすると人生観が変わるらしいが、家事するオトコが珍らしがられない日はいつ来るのか?!

『主婦になりきれない女』

—中流核家族からのRun away』

橘由子 ブロンズ新社 1680円

はた目には、絵に描いたような幸せそうな家族。けど主婦になりきれない自分は「家族」から逃れ、コン

ビニのパート、2トントラックの運転手、食材の宅配と肉体労働で稼いで、しっかり子育て。女性の生き方や働き方を考えさせる著者の体験談。

『変動する家族 —子ども・ジェンダー・高齢者』

(社)日本家政学会 建帛社 1999年5月 2940円

子ども、ジェンダー、高齢者をテーマに家族を捉えなおそうとした家族研究の成果。家族について、実に多様な学問分野からのアプローチが試みられている。これからの家族を考える上で、欠かせない参考書となるだろう。

『別れましょうか、私たち —妻たちの離婚』

山下勝利 朝日新聞社 1999年4月 1365円

なぜ離婚するのかという問いは、なぜ結婚するのかという問いにつながる。熟年離婚の取材記。ちょっとしたぞき味的なところは気になるが、女たちが我慢しなくなったことはいいことだ。

『ワンペアレント・ファミリー』

(離婚母子世帯)に関する6ヶ国調査』

(財)家計経済研究所

大蔵省印刷局 1999年3月 2205円

母子、父子家庭が増加して、従来型の家族を基準とした家族政策がとれなくなってきた。アメリカ、イギリス、スウェーデン、オーストラリア、香港と日本の6ヶ国で同一の質問をして、調査結果を分析。貴重なデータとなった。

〔こころ・癒し〕

『悪魔を思い出す娘たち』

—よみがえる性的虐待の「記憶』

ローレンス・ライト 稲生平太郎 吉永進一訳

柏書房 1999年3月 2100円

ふたりの娘から告発され、逮捕された刑事イングラム。娘たちの凄惨な虐待の「抑圧された記憶」は真実ではなかったというミステリーより謎の多い事件。読み終わったあとも疑問が残る。

『乙女心と拒食症 —やせは心の安全地帯』

鈴木真理 インターメディカル 1999年7月 1680円

拒食症で脳まで縮むという。やせすぎが、様々な弊害をもたらすのを知って少女たちはダイエットにはげんでいるのだろうか。アイデンティティの確立が出来ずに拒食におちいる少女たち。親も教師も一度目を通してほしい本。

『過食・拒食の家族療法』

福田俊一 増井昌美

ミネルヴァ書房 1999年5月 2100円

過食・拒食のきっかけは様々だ。今ではかなり明確な家族療法を用いた治療法が明らかにされている。各々のケースを見ながら実際の家族カウンセリングの過程をたどる。

『拒食と過食の心理 一治療者のまなざし』

下坂幸三 岩波書店 1999年5月 2205円

長年にわたる摂食障害の治療現場から、内面と外面のずれ、家族との関係、社会的要因など多角的に記述。文学作品の中に見る摂食障害論が面白い。

『学校現場で使える

カウンセリング・テクニク(上・下)』

諸富祥彦 誠信書房 1999年4月 ㊦2100円㊧2310円

構成的グループ・エンカウンター、自己主張訓練などの技法を駆使して、具体的な学習の実践方法を解説する。

㊦育てるカウンセリング編・11の法則

㊧問題解決編・10の法則

『虐待を受けた子どもの治療戦略

一被害者からサバイバーへ』

ジェリル L. カーブ トレイシー L. バトラー

坂井聖二 西澤哲訳 明石書店 1999年4月 3990円

トラウマを負った子どもたちに向きあうセラピストに向けた治療のテキスト。具体的な方法を明示しすぐに役立つように工夫されている。

『虐待 一沈黙を破った母親たち』

保坂渉 岩波書店 1999年5月 1785円

わが子を虐待した母親4人のルポルタージュ。母親自身の悩みに目を向けた。家庭という密室で、進行する子どもへの虐待を止めるには通告制度を機能させることも必要だ。父親による虐待ももっと明らかにしたい。

『女性がストレスとつきあう本』

鴨下一郎 大和書房 1999年6月 1365円

世の中ストレスがいっぱい。でも、この手の本は、どうして対症療法やハウツーしか書かないのだろう。もっと怒りを持って女性差別を変えていかなければ、ストレスはエンドレスに続く。

『〈じぶん〉を愛するということ 一私探しと自己愛』

香山リカ 講談社 1999年6月 693円

多重人格、癒し、「私探しの」の流行などこころをめぐる現象を「80年代サブカルチャー」と「精神医学」

の経験と知識を土台に読みとく。

『娘をいらいらさせるおせっかいな母親たち

一母と娘「愛情と葛藤」の心理学』

スーザン&エドワード・コーエン 鈴木秀子訳

三笠書房 1999年6月 1260円

母と娘の関係は、ちょっと距離をおけば見えてくることがあるのに、それがなかなか出来ない。精神分析医が、目をそらさないでと壁をのりこえる方法を示してくれる。

【子育て】

『子育て中こそ輝きたい 一全国公募エッセイ100選』

財)いしかわ子育て支援財団

ぎょうせい 1999年3月 1260円

全国公募エッセイの中から100篇を収録。子育てで得たこと、その楽しさやすばらしさを母も父も率直に綴っている。

『子育て支援のネットワークづくり』

桑名恵子 明治図書 1999年5月 1638円

子育てをめぐる保育所の内外で今起っていることや、それに対応する保育者の思いを事例を通して記述。子育て支援のためのとりくみには参考としたい本。

『子育てヘルプ』

毛利子来 筑摩書房 1999年5月 1260円

子育て真最中の親のSOSに答える本。困ったとき、迷ったときすぐ広げてみたい。あ、そんなことかと安心できるかも。

『しょうがい児の母親もバリアフリー

一働いてふつうに暮らしたい』

西浜優子 自然食通信社 1999年6月 1890円

障害をもつ子を産むと「献身的な母親」をもとめられる社会っておかしいと考えた女性たちが、外のバリアからも、内なる呪縛からも解放され、仕事や地域活動をしたいと実践する。

『0歳から思春期までのEQ教育』

ジョン・ゴットマン 戸田律子訳

講談社 1998年6月 2100円

子供の殺人や、暴力行為が増えている現在だが、基本的なこころの知性を身につける(EQを高める)ことがないまま大人になっていくと、高いリスクを背負うという。こころの成長を助けていくには。

『楽しく子育てアイデア・ブック』

エリザベス・クレアリー 田上時子訳

築地書館 1999年7月 1050円

子どもを叱らず甘やかさず、子どもの感情を聴き、コミュニケーションを大切にする法。そのノウハウと場面をイラスト入りで紹介する。子育てが楽しくなる本。

『母乳とダイオキシン ー岩波ブックレットNo.482』

本郷寛子 岩波書店 1999年6月 462円

母乳が、汚染されていて危ないから粉ミルクにという人が増えたというが、母乳は本当に危ないのか、この問題について解りやすく解説した。

『ぼくらはあきらめへん』

ー講座「追込まれる子どもたち」の記録』

大阪自由学校 ビレッジプレス 1999年6月 840円

この国では、子どもの人権がとことん軽視されているのに改めて驚く。一体大人たちはどんな子どもを育てたいのだろうか。

【か ら だ】

『生き方としての健康科学』

山崎喜比古 朝倉隆司編

有信堂 1999年7月 2940円

保健医療の利用者、消費者の側に立ち、そのエンパワーメントのための「健康科学」をめざして書かれたテキストブック。読者が自分をチェックする欄も設けた共に考えるタイプの保健医療の初めてのテキスト。一般の人にもいい。

『からだにやさしいピルの本』

北村邦夫 講談社 1999年6月 1365円

ピル解禁になったが、低量ピルの安全な使い方、気になることなどわかりやすく解説。まず自分の体を知ることから始まる。長年家族計画に携ってきた著者の熱意が伝わる。

『更年期障害 ー気になる症状と治し方』

堀口雅子監修 成美堂出版 1999年7月 1050円

自分でできる更年期チェック、つらい症状の解消法など毎日がもっとラクになるためのアドバイス。

『出産前後の環境 (講座人間と環境⑥)』

ーからだ・文化・近代医療』

吉村典子 昭和堂 1999年7月 2625円

「出産はからだの生理的行為であり、社会文化的行為である」という認識を前提に、出産するからだの仕組み、日本の出産の変遷、女性のからだと文化などに取

り組んだ。縮密でしかも女性に対する優しさが、読みとれる論文揃い。

『30歳からのわがまま出産』

井上裕美 福本由美子 井本園江

二見書房 1575円

手とり足とりわがままhanako族がお産を迎える時代。でも、本当に妊婦にとっていい時代なんだろうか。

『WHOの59カ条お産のケア実践ガイド』

戸田律子訳 農文協 1997年7月 1200円

世界保健機関が、産科医療の「医学的に有効なケア」「明らかに有害なケア」「慎重に行うべきケア」を発表した。その全訳。出産の際、明らかに有害なケアをしている病院の何と多いことか！この本は出産前に是非読んでほしい。

『ドキュメント 子宮内膜症 赤ちゃんができた』

中山あゆみ 法研 1999年4月 1365円

子宮内膜症で痛み悩まされていた著者は、遂に手術する。手術後に妊娠・出産する。その体験を明るく描いたドキュメント。子宮内膜症イコール不妊と思っている人が多いが、決してそんなことはない。

『中村先生、ピルって何ですか？』

中村理恵子 KKベストセラーズ 1999年7月 1155円

ピルって何ですか？60問に答える本。「ピルに向く人・向かない人」の章をよく読んでほしい。

『ピルのことを知りたい ー性と避妊を考える』

芦野由利子 岩波ブックレット 1999年7月 462円

今年ようやく承認の決まったピルだが、以外に正確な情報を知らない。長年、性と避妊の問題を女性の側から発言してきた著者が、飲む人の身になって説明する。

『ルポルタージュ 出生前診断』

ー生命誕生の現場に何が起きているのか？』

坂井律子 NHK出版 1999年6月 1575円

NHKのETV特集で扱った「遺伝子技術」「生命誕生の現場」などのシリーズの構成をした著者が、ひとりの女性として放送メディアと共に真剣に向き合った。進む診断技術を追い、「胎児の生きる権利」「女性の自己決定」を改めて問うノンフィクション。

【セクシュアリティ】

『性の自己決定能力を育てる ピアカウンセリング』

高村寿子 松本清一監修

小学館 1999年6月 2310円

誤った情報のはん乱する中、いかにして正しい性情報や助言を若い人たちに伝えるかというプログラム。一方的に知識を教えるのではなく、自己決定能力もつけていくピアカウンセリングのノウハウ。

『性同一性障害はオモシロイ』

—性別って変えられるんだヨ』

佐倉智美 現代書館 1999年7月 2100円

ドイツのある市長が、性転換したことでリコールが起ったが、性同一性障害についての一般の知識はまだまだ。性別のバリアフリーをめざす著者の明るい性別転換生活経験談。

『セクシュアリティの歴史社会学』

赤川学 勤草書房 1999年4月 5250円

近代日本におけるセクシュアリティ言説の形成と変容について深く掘りさげたユニークな学術論文。言説分析、歴史社会学の方法で分析した。

『なぜ女は女が嫌いなのか』

—もっと上手につきあう知恵』

シェア・ハイト 石渡利康訳

祥伝社 1999年7月 1785円

シェア・ハイトが今度は女同士の新しい親密な関係を提唱。女性同士の率直な関係を作りやすくしているのは様々なタブー意識だという。原題はThe Loyalty Taboo between Women。

『買売春解体新書 —上野千鶴子×宮台真司』

SEXUAL RIGHTS PROJECT編

つげ書房新社 1999年7月 1680円

女の二分法があてはまらなくなった時代。本当に女にセックスワークの自己決定権はあるのだろうか。「援交」や買売春の背景に見えてくるのは、性や関係の貧しさばかり。自分自身への意欲返しではないか。

〔セクハラ・暴力〕

『女を殴る男たち—DVは犯罪である』

梶山寿子 文芸春秋 1999年7月 1450円

シン普森事件は日本にも報道されたが、日本でもDVに対する認識が、強く求められている。被害者を取材し、アメリカの保護システムや日本の対応を検証する。シェルター—覧付。

『会社のセクハラ防止ABC』

アクト・セクハラ問題研究グループ

税務経理協会 1999年4月 1680円

セクハラはどのようなものか、社内のセクハラ防止対

策など、実例を沢山あげて説明していく。会社の中のセクハラ防止のためのテキスト。

『知っていますか？』

セクシュアル・ハラスメント—問—答』

養父知美 牟田和恵

解放出版社 1999年5月 1050円

何がセクハラか、相談されたときの対処法、会社はどんなことをしなくてはいけないかなどを各地でおきた裁判例なども示してQ&A方式で答える使いやすいハンドブック。

『職場のセクシュアル・ハラスメント』

奥山明良 有斐閣 1999年5月 1890円

企業の「政策方針」表明のモデル、自己点検のためのチェック・リストなど具体的な提案も入れてセクハラの法的考察、諸外国の取り組みや防止と問題解決の道筋を示している。

『図解セクハラ早わかり』

セクハラ問題研究会 中経出版 1999年6月 1575円

事業主がしなければならないセクハラ対策、社内諸規程の見直しなど正に図解で。

『なぐられる女たち —世界女性人権白書』

米国務省編著 有澤知子他訳

東信堂 1999年5月 2940円

日本を含めた189ヶ国、4地域の女性への暴力・差別の実態をレポートしたもの。これを見ると社会の差別意識と性暴力が密接な関係にあることがよく解る。アメリカが入っていないのが残念だ。

『もうひとつのレイテ戦』

—日本軍に捕えられた少女の絵日記』

レメディアス・フェリアス

竹見智恵子監修 澤田公伸訳

木犀社 発行ブカンブコン 1999年5月 1260円

フィリピンのレイテ島で日本軍に捕えられ「従軍慰安婦」にされた女性の絵日記。少女の幼いが、精緻に描かれている絵が、なまなましくて胸つぶれる思いがする。

〔女性史〕

『アフリカの女性史 —ケニア独立闘争とキクユ社会』

コーラ・アン・プレスリー 富永智津子訳

未来社 1999年5月 2940円

キクユの伝統的な性差別、植民地支配に対する闘いを勇敢に闘った女性たちから直接話を聞いて書かれた迫

真の女性史。女性たちがケニア独立闘争の新たな力となり流れを変えた。

『描かれた女たち』

— 絵巻の主婦像から昭和の美人画まで —

塩川京子 朝日新聞社 1999年5月 1260円

「伴大納言絵巻」に登場する女房たちから、浮世絵、昭和の美人画まで描かれた女性像を軸にその時代の女の姿を読みとく。遊女の平均寿命が22.7才（何と残酷）だったなどとは知らなかった。

『神と女の古代』

楠戸義昭 毎日新聞社 1999年7月 1680円

遺跡の発掘から次々と明らかになる古代。土偶、環状列石、卑弥呼の社会等々古代史の謎をたどると女と神の王国が姿を現す。

『きしわだの女たち 市民がつづった女性史』

岸和田市立女性センター

ドメス出版 1999年3月 2520円

1869年から現在までの岸和田の女性の歴史を女性市民の手で掘り起し、立派な本にまとめあげた貴重な記録。

『颯爽たる女たち』

— 教科書に書かれなかった戦争・らいぶ —

遠藤織枝 小林美恵子 高崎みどり

梨の木舎 1999年6月 1890円

飯田深雪、櫛田ふきなど、90才を過ぎてなお現役の女性にインタビュー。明治生れの女性たちのことばの中からこの100年の歴史を見る。ユニークな試み。

『女性史を学ぶ人のために』

石月静恵 藪田貫 世界思想社 1999年6月 2100円
女性史研究の「いま」を総括的に見ていこうとする試み。古代から戦後まで、時代毎に各女性史家が書いているが、藤目ゆきの「占領・安保・性暴力」の項は、戦争への道が再び開かれようとしている今、注目をしたい論文だ。

『女性群像』

西村圭子 新人物往来社 1999年6月 2940円

戦国から江戸時代へかけての激動期、女性たちが生きにくい時代を誇り高く生き抜いた女性たちをたどる。十返千鶴子と著者の二人が語る「江戸時代の女性たち」は興味深い対談だ。

『新ミレニアムへの伝言』

— 第7回全国女性史研究交流のつどい in かながわ —

第7回全国女性史研究交流のつどい実行委員会

ドメス出版 1999年3月 2310円

なかなか刺激的なシンポジウムと分科会報告集。上野千鶴子、加納実紀代、安丸良夫氏等々論客をそろえ、ズバリと視点を切り拓く論議が見もの。とりわけ、安丸氏の「通俗道徳」が基底で支える「家型家族」論の展開は面白かった。



『大唐帝国の女性たち』

高世瑜編著 小林一美 任明訳

岩波書店 1999年5月 3780円

300年も続いた大唐帝国の時代、後の明、清時代よりも、女性に対する束縛はそれほど嚴重ではなかった。そしてかの則天武后を生む。唐代女性の各階層・身分の女性の実像を気鋭の女性史家が活写する唐代の社会史。

『自伝・評伝』

『女性作家評伝シリーズ8 平林たい子』

中山和子 新典社 1999年3月 1575円

平林たい子の波瀾の生涯を、作品と共にたどる。男女の関係を「階級関係」だと捉えたたい子は、女性の新文化を創造しなければならないと考えていた。

『母・住井すゑの横顔』

犬田章 大和書房 1999年5月 1680円

息子である著者が、住井すゑと家族の姿をはじめて語る。子どもの目から見た母親像は、子どもたちのセーターを編み、台所仕事をし、父親の介護に苦勞する普通の母親だったという。しかし、ここには信念の人、住井の面目躍如の話がいっぱい。

『新装版 キキ — モンパルナスの恋人』

ルー・モルガール 北代美和子訳

河出書房新社 1999年3月 2940円

フジタ、ピカソらのモデルとして知られたキキを愛人マン・レイは多くの写真・映画に残した。彼女の純粋さとセックスシンボルとしての栄光と悲惨の生涯が本格的伝記になった。

『高齢問題』

『老いてしあわせに生きる知恵』

吉沢久子 海竜社 1999年6月 1680円

活字が大きくて読みやすい。ことばも体の中をくぐってきたものでわかりやすい。年をとってこんな文章が書けたらいいと思う。食べもの話はとりわけおいしい。

『小倉遊亀 天地の恵みを生きる』

- 百四歳の介護日誌』

小倉寛子 文化出版局 1999年5月 1470円

104歳の画家小倉遊亀。身近に世話をしてきた孫にあたる著者の目で、偉大な画家を語る。97歳で病いに倒れた遊亀の介護日誌は、介護に当たっている人にとってもいい参考になる。

『ひとり暮らし老後の選択』

吉廣紀代子 小学館 1999年5月 1575円

コーポラティブ・ハウス、コレクティブ・ハウス、サービス付分譲マンション、有料老人ホーム、公的施設等々、老後の暮らしを選択できる時代になった。ひとつひとつ、長所、短所はあるが、要は自分の生き方と暮らし方の自己決定が出来なければ、いい老後は望めないということか。

『ワガママなバアサンになって楽しく生きる』

樋口恵子 大和書房 1999年6月 1575円

前向きに明るく老いるコツ、老後を賢く乗り切る秘訣。行動するバアサンの先頭をゆく著者の痛快エッセイ。平成版姑の心得、老ーズネットを作ろう、老人よサイフを抱け！など、すぐに役立つメッチャ楽しいバアサン講座。

〔文学・エッセイ〕

『愛の力』

蔦森樹 東京書籍 1999年5月 1680円

女という性で生きることを選んだ著者の話題作『男でもなく女でもなく』のその後の物語が小説に。情を越えた本当の愛のすがたを描き出す。著者の生活と別れを描いた長編小説。

『あなたがあなたであるために』

- 女子高生のための「書くこと」の本』

森絹江 ユック舎 1999年6月 1575円

「書くこと」にともなう苦しみ、それを経て生まれる喜びがどんなものか、自分と向き合い理解することの大切を、自身の辿ってきた道をとらえ返しながら若い人たちに語りかける。

『女の日本語 男の日本語』

佐々木瑞枝 筑摩書房 1999年6月 1260円

留学生に日本語を教えている著者が、日本語の中のおかしな表現を、その背景と共に留学生たちと考える。

『カナダの女性たち』

望月徳子 文芸社 1999年5月 1260円

「研究グループ交換」でカナダ研修に行った著者が、そこで出会った女性やカナダでの体験を報告。

『魂を考える』

池田晶子 法蔵館 1999年4月 1995円

わからないことをわかるために考える。書きながら考える。書くことによって考える。生きることの命題を若い哲学者が語るように書くことで、読者が広がっているという。脳死と臓器移植、インフォームド・コンセントなど、今の医療を鋭くついた論考も。

『女ひとり旅読本』

- ガールズ・バックパッカー・マニュアル』

ひとり旅活性化委員会 双葉社 1999年4月 1575円

ひとり旅は誰に気がねもいらず、好きなところの好きな時間好きに過ごせるが、大きなリスクも。チカン・強姦はいうに及ばず、死にそうな経験をした人が38%も。沢山の体験をもとにガイドする。

『ガウディ アフタヌーン - 黒い鞆の秘密』

バーバラ・ウイilson 原美奈子訳

パンドラ 発売現代書館 1999年4月 1890円

バルセロナを舞台に繰り上げられるミステリアスな事件に、レズビアン探偵が大活躍。女のはずが実は男、男と見たのは実は女などトランスセクシャルな面白いミステリー。

『女性狂言師でござる - 和泉流姉妹の狂言世界』

和泉淳子 三宅藤九郎 (和泉祥子)

廣済堂出版 1999年5月 1680円

歌舞伎と違って、狂言の歴史には“女人禁制”はなかったという。姉妹そろっての狂言師が生まれた。女性狂言師協会も作って、これからの活躍が楽しみ。

『女人源氏物語 上・下 (新装愛蔵版)』

瀬戸内寂聴 小学館 1999年6月 2940円

「私はもし、作中の女たちが口を開いたらどういうことを言うだろうか」と女たちの心によりそって嫉妬や不安、怒り、哀しみ、あきらめなどを語らせたという。上下2巻にまとまった愛蔵版。

『ダロウェイ夫人』

- ヴァージニア・ウルフ コレクション』

ヴァージニア・ウルフ 近藤いね子訳

みすず書房 1999年5月 2835円

76年『ヴァージニア・ウルフ著作集』3の復刻版。ウルフの文体の魅力と、ロンドンの街並みと、ダロウェイ

イ夫人の気品と、心理描写のアヤが、何ともいえず味わい深い。

『ハートフル・トーク ふくおか発信!』

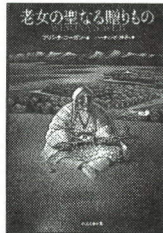
杉本章子他著 福岡市女性センター・アミカス編
NECクリエイティブ 1999年4月 1680円
福岡在住の人気女性作家が一堂にそろってトーク。文学論と生活と、女と男と語る言葉は尽きない。彼女たちのファンにとっては、魅力いっぱいの企画。内容もその期待をうらぎらない。

『光と祈りのメビウス』

松本侑子 筑摩書房 1999年7月 1575円
いのちの転生、自然との共生、環境ホルモン、等々をテーマに今私たちをとりまく状況と、私たちの求めているものを描き出した心安らぐ小説。

『老女の聖なる贈りもの』

プリシラ・コーガン
ハーディング・祥子訳
めるくまーる 1999年4月 1890円
メディスン・ウーマン(心身を癒す技をもつ人)の物語がなぜ、こんなに懐しく読めるのだろうか。インディアンの老女ウィノナと白人医師メギーとの心の交流。近く映画化されるとか。



【その他】

『ガンジー自立の思想 -自分の手で紡ぐ未来』

M. K. ガンジー著 田畑健編 片山佳代子訳
地湧社 1999年6月 1995円
ガンジーの文明論、チャルカの思想に示す独特の経済学は、今の物心ともに崩壊寸前の日本人に一つの示唆を与える。改めて心静かに耳かたむけたい。

『人権はだれのものか〔新版〕』

佐瀬一男 尹龍澤 有信堂 1999年5月 2100円
地味な本だが93年初版以来地道に増刊を続け、新版となったという。人権を考える視点が学生向けにわかりやすく解説されている。

『ひとの数だけ文化がある』

―第三世界の多様性を知る―
楠瀬佳子 洪炯圭 第三書館 1999年3月 2100円
京都精華大学の講座を収録したものが一つ一つの講義が、実に生き生きとしていて、各国の事情、文化への興味が湧く。学生にも好評だったというが、アジア・アフリカ・ラテンアメリカについて、日本での情報が

いかに乏しく片寄っているかが解る。

【資料】

『平成11年版 男女共同参画白書』

―男女共同参画の現状と施策―
総理府編 1999年4月 3150円
男女共同参画2000年プランに関する報告書(第3回)

【雑誌】

『女性施設ジャーナル5 -特集 女性政策の新時代』

(助)横浜市女性協会 学陽書房 1999年5月 1575円
「男女共同参画社会基本法」の策定までのウラオモテは、今号のメダマ。聞き手の上野千鶴子、話し手の大沢真理の丁々発止は、読みごたえがある。現場レポート「新ステージの女性政策、期待される女性センター」は利用者にも大いに参考になる。

『月刊女性情報1999-4』

(有)パド・ウイメンズ・オフィス 1999年4月 3045円
特集 改正均等法(中)、ピル解禁へ、女たちの政治参画(1)

『月刊女性情報1999-5』

(有)パド・ウイメンズ・オフィス 1999年5月 3045円
特集 改正均等法(下)、女たちの政治参画(2)

『月刊女性情報1999-6』

(有)パド・ウイメンズ・オフィス 1999年6月 3045円
特集 子どもへの虐待



『現代のエスプリ No.383』

―ファミリー・バイオレンス
(家庭内の虐待と暴力)―
岡堂哲雄 関井友子
至文堂 1999年6月 1250円
夫婦間暴力への理論的なアプローチ、DVの現状と課題、子どもへの虐待、高齢者への虐待など、家庭内暴力を総合的に分析する。

【文庫】

活! 群ようこ もたいまさこ 角川文庫 420円
それでも恋がしたいあなたへ 私の体験論的恋愛論
田嶋陽子 徳間文庫 480円
葉桜の季節 高樹のぶ子 講談社文庫 520円
かぼちゃの生活 宮迫千鶴 ハルキ文庫 714円

内科病棟24時	宮子あずさ	講談社文庫	540円
続・スカートの風	呉善花	角川文庫	520円
水辺のゆりかご	柳美里	角川文庫	540円
フィレンツェ	若桑みどり	文春文庫	620円
居場所がない	伊藤比呂美	朝日文庫	567円

窓のある書店から	柳美里	ハルキ文庫	525円
B級BANANA	吉本ばなな	角川文庫	560円
魔女が語るグリム童話	池田香代子	宝島社文庫	500円

ミニコミ情報

(松香堂で扱っているミニコミの最新情報です)

「あごら249号－「周辺事態法」は戦争への道Ⅱ」	女による女のBOC出版部	1999年4月	1050円
「あごら250号－あごらとエロス 戦後フェミニズム雑誌の流れをみる」		1999年6月	1200円
「異文化の交差点 イマージュ vol.16－21世紀への助走」		1999年7月	525円
「IBU-IBU VOL.22－特集 革新の春 話題のあれこれどれ？」	トランタンネットワーク新聞社	1999年4月	315円
「IBU-IBU VOL.23－特集 雇用創出ア・ラ・カ・ル・ト」		1999年6・7月	315円
「FLCニュースレターNo.30－特集 結婚・離婚・再婚」	女性ライフサイクル研究所	1999年4月	315円
「女たちの21世紀No.19－特集 女性は政治を変えられるか」	アジア女性資料センター	1999年7月	1260円
「女のからだから166号－「少子化社会対策基本法(案)」って知ってましたか？」	SOSHIREN・女のからだから	1999年5月	315円
「女のからだから167号－受精卵診断を不妊治療にも応用?！」		1999年6月	315円
「女のためのクリニックニュースNo.169－人生を語ることを保障する「援助プログラム」の実際①」	ウイメンズセンター大阪	1999年5月	420円
「女のためのクリニックニュースNo.170－WCOの総会ひらきました」		1999年6月	420円
「女のためのクリニックニュースNo.171－女のクリニックリスト報告集に反響続々」		1999年7月	420円
「月刊家族159号－特集 私たちが公民館・女性センターに望む女性学講座」	家族社	1999年5月	315円
「月刊家族160号－特集 公的介護保険制度を考える①」		1999年6月	315円
「月刊家族161号－特集 公的介護保険制度を考える②」		1999年7月	315円
「GAZETTE No.67－FCT/ANWIC国際セミナー・ワークショップ ジェンダーとメディア・リテラシー1998.12」	FCT市民のメディア・フォーラム	1999年3月	683円

「GAZETTE No.68－新たな地平を拓く」		1999年7月	683円
「環境イベントガイドPico VOL.12－特集 ネットワークする市民～8つの環境グループからのメッセージ～」		1999年5月	368円
「くらしと教育をつなぐWe 5月号－特集 学校で生き延びる方法」	フェミックス	1999年5月	680円
「くらしと教育をつなぐWe 6月号－特集 〈フェミニズムの時代は終わった〉のか?」		1999年6月	680円
「くらしと教育をつなぐWe 7月号－特集 セクシュアル・ハラスメント」		1999年7月	680円
「Green Letter VOL.13－インタビュー 関西大学教授 山下栄一さん「女性解放にとって心理学とは」	大阪心のサポートセンター	1999年春	525円
「Green Letter VOL.14－段林和江さん(弁護士)へのインタビュー「弁護活動からみる女性の現状」		1999年夏	525円
「現代性教育研究月報5月号－障害児と性教育－盲及び知的障害をふまえて－」	(財)日本性教育協会	1999年5月	158円
「現代性教育研究月報6月号－実践報告 ティームティーチングを取り入れたAIDS教育の試み」		1999年6月	158円
「現代性教育研究月報7月号－ピル認可後の思春期の子どもたちの性的自己決定」		1999年7月	158円
「女性労働研究NO.36－巻頭 国際高齢者年と日本の課題」	女性労働問題研究会編	ドメス出版	1999年7月 1575円
「シングルス・ネットVOL.43－5月例会の報告」	確信犯?シングルの会	1999年7月	263円
「性と生の教育No.23－特集 障害児・者の《性的自立と共生》」	あゆみ出版	1999年7月	1260円
「性と生の教育No.24－特集 最新・性感染症とエイズの学習		1999年9月	1260円
「ちいさい、おおきい、よわい、つよいNo.23－特集「らしさ」のふしぎ 女の子の育て方、男の子の育て方」	ジャパンマシニスト	1999年5月	1000円
「東京強姦救援センターニュースNo.40－被害者像を			

- 押しつけない」
 東京・強姦救援センター 1999年4月 105円
- 「トランタン新聞VOL.43-特集 ママの社会性 自己チューはママの特権!？」
 トランタンネットワーク新聞社 1999年5月 210円
- 「トランタン新聞VOL.44-乾杯特集/夢をカタチにする!」
 1999年7月 210円
- 「日米女性ジャーナルNo.25-日本語」
 城西大学国際文化教育センター 1999年2月 2625円
- 「HEART あい NEWS No.27-特集 隠れたカリキュラム 小学校編」
 BBB・OSAKA 1999年6月 315円
- 「ひとりから創刊号-対等なまなごしの世界をめざして」
 編集室ふたりから 1999年3月 1050円
- 「ひとりから第2号-ひとりからインタビュー「日本国憲法第九条」チャールズ・オーバピーさん他」
 1999年6月 1050円
- 「パワーアップニュースVOL.30-田上時子さんインタビュー 自尊感情を育てる」
 パワーアッププランニング 1999年7月 263円
- 「ピーマン・インフォメーションNo.59-便利な一覧表付! 5月からの講演会・セミナー最新情報」
 ピーマン・ネットワーク事務局 1999年5月 525円
- 「ピーマン・インフォメーションNo.60-便利な一覧表付! 7月からの講演会・セミナー最新情報」
 1999年7月 525円
- 「ファイトバックVOL.37-小西聖子さん講演会 心的外傷の症状の具体例と回復の手立て」
 性暴力を許さない女の会 1999年5月 525円
- 「Voice 第100号-「負けて勝った裁判」他」
 住民票統柄裁判交流会 1999年5月 210円
- 「Voice 第101号-夏合宿で、日独裁判官の違いを学ぼう!」
 1999年7月 210円
- 「月刊むすぶNo.340-特集 森が大好き!木を守り、育て、そして使う人々」
 ロシナンテ社 1999年4月 800円
- 「月刊むすぶNo.341-特集 戸籍・国籍・入管体制 だんご三兄弟のひ・み・つ」
 1999年5月 800円
- 「月刊むすぶNo.342-特集 がんとうきほう」
 1999年6月 800円
- 「メンズ・ネットワークNo.47-特集 男の癪癪」
 メンズセンター 1999年5月 315円
- 「メンズ・ネットワークNo.48-特集 映画三昧」
 1999年7月 315円
- 「れ組通信No.145-日本におけるヘテロセクシズムと女性の状況 女性にとってヘテロセクシズム(異性愛至上主義)とは何か」
 れ組スタジオ・東京 1999年4月 420円
- 「れ組通信No.146-今回からスタート 欄外お楽しみ情報「オーストラリアのレズビアン雑誌より」」
 1999年5月 420円
- 「れ組通信No.147-東京国際レズビアン&ゲイ映画祭」
 1999年6月 420円
- 「れ組通信No.148-人物紹介 ヴァレリー・テイラー」
 1999年7月 420円
- 「わいふNo.278-特集 “おけいごと”との格闘」
 グループわいふ 1999年7月 620円
- 「夫・恋人からの暴力を防ぐためのネットワークに関する調査報告書-アンケート調査による大阪府下のDV関係の対応状況や抱えている問題を総合的に検討した報告書」夫・恋人からの暴力を考える研究会
 1999年4月 1575円
- 「キャンパス・セクシュアル・ハラスメント ガイドラインの手引き-'98.11.29第4回全国集会報告 文部省規定、要望、手引き ガイドラインのチェック項目と解説」キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク
 1999年6月 840円
- 「キャンパス・セクシュアル・ハラスメント 大学の責任、どこまで、どうとらせるか-'98.7.12第3回関西ブロック集会報告 資料 福岡大学・東京経済大学・和光大学のガイドライン」キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク
 1998年11月 525円
- 「キャンパス・セクシュアル・ハラスメントと法-京都産業大学教職員労働組合主催シンポジウム報告 資料 改正男女雇用機会均等法とガイドライン」
 京都産業大学教職員労働組合 渡辺和子
 1999年4月 525円
- 「性同一性障害者も生きやすい社会を! 資料集く改訂第二版)-TSとTGを支える人々の会・公開シンポジウム('98.3月)のための資料」
 TSとTGを支える人々の会 1999年3月 525円
- 「トランジェンダーの自助支援グループ全国交流誌-自助支援グループ全国マップ・紹介」
 TSとTGを支える人々の会 1999年3月 525円
- 「韓国語と日本語で学ぶ 韓国の社会と女性-日韓市民交流のための教材 韓国の新聞から記事を選び構成 韓国女性の暮らしの変化を伝える」
 青柳優子 1999年5月 1260円
- 「イベントガイド Pico Vol.13-特集 エコライフを実践する三人の主婦」
 環境グループガイド 1999年7月 368円
- 「1999年度 幼稚園ガイド-大阪府幼稚園紹介(保育時間、費用、食事、服装、保育方針etc.)」
 1999年 1480円
- 「平成11年版大阪労働白書-ホワイトカラーと労働者派遣の現状と今後」
 財大阪労働協会 1999年7月 1700円


あなたの情報・わたしの情報


対等なまなざしの世界をめざして

季刊誌『ひとりから』創刊!

金住典子

いまこの国は、急激に、戦争をする国へと変わりつつあります。世界に覇権を誇るアメリカの戦争に無条件に追随する「ガイドライン」、国民を総管理し総スパイにする「国民総背番号制」「盗聴法」、そして「有事法制」を整備し、「日の丸」「君が代」で教師たちをしばり、若者を戦場にかり立てる。この流れを押しとどめることは、もはや容易なことではありません。

『ひとりから』は、人間とその社会のあり方を深く問うことを通して、この流れを根本から断ち切ることをめざします。

ぜひご購入を! 編集 金住典子&原田奈翁雄

年間購読料4,000円<年4回/送料込>

【申込先】

TEL 03-3985-9454 FAX 03-3985-9434 (24時間対応)

新刊「ドメスティック・バイオレンス

を乗り越えて」

鈴木隆文&後藤麻理著 日本評論社 8月中旬に発売します。

後藤麻理

ドメスティック・バイオレンスに関する書籍が次々と発売されるなかで、類書と一味違う新鮮で個性的な本をみなさんにお届けします! キャッチコピーは、

男も女も「力による支配」の社会構造から解き放たれ
「自分ひとり分の自分らしい生き方」をするために
女たちが 本来の「伸びやかさ」「しなやかさ」
「力強さ」「命の輝き」を取り戻すために
あなた自身の心と身体で完成させるワークブック

この本は、読者の皆さんが「この本の主役」となり、チェックリストやワークなどの質問に答えたり、私達の提案する行動を実際に試したりしながら完成させる本。一人一人の方の手で本が完成した時、そこには世界にただ一冊のこの本と、世界にただ一つのあなたらしい生き方が誕生していることでしょう。

『99 女性と政治キャンペーン報告書』 ができました!

森屋裕子

「女性議員を50%に!」を合言葉に1999年春の統一地方選挙で女性候補応援キャンペーンが全国的に展開されました。その報告書ができました。買って読んで元気になって。(1999年8月 税込1050円)

大学におけるセクシュアル・ハラスメント防止対策のためのブックレットを作成

渡辺和子

今回の改正均等法にセクシュアル・ハラスメントが雇用管理上配慮すべき事項として入り、セクシュアル・ハラスメント対策が大学にも義務づけられました。女性学・ジェンダー論に関わってきた教職員が、大学の防止規定や指針づくりに携わるケースが増えてきました。その際に参考になるブックレット3点をつくりました。セクハラ防止対策にぜひ役立ててください。

- ・『大学の責任』(『キャンパス・セクシュアル・ハラスメント——大学の責任、どこまで、どうとらせるのか』 キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク編 525円

シンポ「大学の責任、どこまで、どうとらせるのか」+「大学の責任とは何か——予防・対応・説明」+ガイドライン福島大、東京経済大、和光大

- ・『キャンパス・セクシュアル・ハラスメントと法』京都産業大学教職員労働組合編 525円

M大学のセクシュアル・ハラスメント訴訟を中心に法的な面を議論したシンポの記録+文部省、労働省、人事院の取り組み+米国教育省公民権局パンフ

- ・『ガイドラインの手引き——キャンパス・セクシュアル・ハラスメント』 キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク編 840円

シンポ「ガイドラインの功罪」+文部省の規程、運用の手引き+ガイドラインのチェック項目と解説、採点+ガイドライン例(大分大学、東邦学園短期大学)、リーフレットチェック項目

問い合わせ先: キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク事務局 渡辺和子

電話・ファックス 075-771-4569

kazuko@cc.kyoto-su.ac.jp

(この欄の本は松香堂天満橋支店でも販売中です)

●Information from SHOKADOH

99年度会費未納の方には、同封の振替用紙に金額が押印してあります。どうぞお早目にお振込み頂きますようお願い申し上げます。入れ違いに納入下さいました方にはごめんなさい。住所変更等は天満橋店までお知らせ下さい。

連載 第67回

ミニコミの女たち

日本DV防止・情報センター

事務局

進戸房子 (しんとふさこ)

日本DV防止・情報センターは昨年5月に設立された民間のNPO団体です。DV(夫・恋人からの暴力)は法律、心理、医療、福祉などたくさんの分野に関わる問題です。そこで各分野で活動する専門家が集まって協力しながらDVの問題を解決していこうと、当センターを立ち上げることになりました。設立以来たくさんの方のご協力を得て、去る7月9日には設立1周年の交流会を開くことができました。

活動は大きく分けて2つになります。DVの被害に悩んでおられる方への支援とDVに関連する活動団体や専門家のネットワークづくり・情報交換です。

DV被害者への支援としては、全国からの電話相談を受け付けており、設立以来300件近くになりました。相談者の状況に応じて、シェルターやカウンセリング、法律相談等の相談先を紹介します。また、避難のしかた、相談の受け方などのアドバイスをします。また何より、やっとの思いで電話をかけてきた女性に、「あなたは、悪くない。どうか自分を大切にしてください」と伝えます。



(DV防止センターの講座風景)

ネットワークづくり・情報交換の場としては、シンポジウム、専門家会議、ボランティア養成講座などを開いてきました。当センターではこの他に、DV関連の情報を集積し、発信するための調査研究活動や社会啓発もめざしています。

さて、これらの活動は、年4回発行の日本DV防止・情報センター「ニュースレター」でお伝えしています。当センターの会員や賛同人になってくださった方々と全国のDV関連施設などに発送しています。現在は第4号を準備中です。

またこの1年で、当センターから出した本・冊子は、以下の通り、5冊になりました。DV関連の仕事に携わる方から多くのご注文をいただいています。また「そちらで出している本を読んで、相談してみる気になりました」という、相談電話もかかっています。

※日本DV防止・情報センターへのご連絡は
月・水・金 10時～14時
電話・FAX 078-822-0284

日本DV防止・情報センター発行の本・冊子

- ①朱鷺書房「ドメスティック・バイオレンスの視点」(99年4月) 1680円(税込み)
DVとは何か、DVを取り巻く現状と問題点、対応マニュアル、暴力男性の更正プログラムまで、DV問題を多角的に検討しています。
- ②かもがわ出版「ドメスティック・バイオレンス 在米日本女性の戦いの記録(かもがわブックレット124)」(99年3月) 660円(税込み)
- ③「夫・恋人からの暴力を防ぐためのネットワークに関する調査報告書」(99年6月) 1500円(税込み)
- ④「DV解決マニュアル=法律編=」(98年) 1500円(税込み)
- ⑤「夫・恋人からの暴力-アメリカの現状と日本のこれから-」(98年) 1000円(税込み)

以上の本は松香堂で扱っています。

ウイメンズブックストア松香堂新刊2冊

『ここが知りたい!そこが聞きたい!』

男女共同参画社会基本法』

船橋邦子著(税込882円)

6月施行された基本法を解りやすく解説したブックレット。基本法、女性差別撤廃条約等資料付。

『隠された女の時代』

-女神を探して地中海をゆく』

まや万紗子著

地中海の古代遺跡に眠る女神たち。今蘇る母権制の時代。



(税込2100円)

—— 海外だより ——

バンコク発 WOMANIFESTO (女性宣言)

女性アーティスト たちの交流展

イトー・ターリ

国際女性のアート交流展WOMANIFESTO (女性宣言)が、タイのバンコクでこの3月末から2週間の日程で開かれた。ニタヤ・ウエアリワラックルさんという画家が呼びかけて始まった美術とパフォーマンスの展覧会だ。今年が2回目目で28名の女性アーティストが集まり、2年前に開催された1回目の倍の数に膨れ上がっていた。半数がタイの女性作家、そして半数がインド、パキスタン、シンガポール、インドネシア、ヴェトナム、韓国、日本、クロアチア、米国、オーストリア(中国人)から集まってまさに国際交流展だ。

助成金も出て盛大に

州からの助成が出た為に、交通費、ホテル代、材料費と食費が完全に支給され、オープニングセレモニーには、州政府の役人や知事夫妻が出席し、民族楽器の楽団と女性三重弦楽奏が登場するという公式のイベントになっていて、1回目を知っている私は大いに驚いた。女性の作家がこれだけ集った展覧会はタイでは初めてのことで、このような展覧会の意味を州政府は認めたというわけだ。記者会見の場で、役人が続けて助成すると発言したのを私たちは聞き逃さず、盛大な拍手を送った。

今回の企画はニタヤさんと相棒ニックさんのスタジオサングとエンパワーファンデーションが共同で行ない、主催者の方もパワーアップしていた。アーティストと女性問題に取り組んできたグループの両者の知恵と経験が相まって、助成を獲得し、やり遂げることが出来たのだ。

公園を会場に!

興味深かったのは、会場がポピュラーな公園だったことだ。宮殿やワットポーの前にある、東京で言えば、日比谷公園、それを丸ごと、2週間使用させてもらったのだ。休息にくる人、ジョギングする人が日差しが弱まる午後3時過ぎになるとゾクゾクやってきて、老若男女、子供、かなりの人でうまるのだった。インスタレーション(空間造形)の作業をしていると、人々



(会場のサラロン公園にて)

がながめていたり、話しかけて来たり、アートが自然に公園に融合してゆくようだった。アート好きの人だけがやってくるスペースよりも、開放的で、すばらしい選択だった。以前にバンコクではギャラリーには人が来ないのだと言っていたのを思い出した。

自分の仕事を語るワークショップ

アートと女性がドッキングすることの意味が、さまざまな配慮の中に見られたのも興味深かった。たとえば、2日間かけて、28名全員が、スライドやビデオを見せながら、自分の仕事を語る自分たちのためのワークショップをしたのだ。和気あいあいとして、心を開ける雰囲気があった。飾ったりする必要もなく、自分のことを語り、作品の背景を語ることによって、精神的に、根本的に深いところで勇気づけられるのは、表現行為をしてゆく者には得難い経験となる。今、まさに、女性たちが自分たちの声で、その表現の検証を始め出したのだ。社会や文化があぶり出しのように見えてくる作品が並び、私たちの現在が見えていた。



(アートトークビデオをみながら
カフェギャラリーにて)

日本で、私はウィメンズアートネットワークをつくり、活動しているが、いつもなぜ女性のアートなのかという問いが繰り返し出され、話されている。来年「わたしの自画像」をテーマに展覧会を開こうと準備をしているが、自分を見つめ、生きることを問うアートはバンコクに集ったアーティストの仕事と連動している。

(パフォーマンス・アーティスト)

=書評=

『ベッシー・ヘッド 拒絶と受容の文学』

楠瀬佳子著

第三書館 1999年 2625円



『マルー愛と友情の物語ー』などで日本でも知られている南アフリカ出身の女性作家ベッシー・ヘッド(1937-86)の評伝がついに出了。アフリカ文学、分けても女性作家を長年にわたり研究している著者がベッシーの生涯を克明に追跡して、現地調査の写真と共にベッシーとその作品群を再生させている。

ベッシーの人生は白人と非白人との間に子供をもうけることが法的に許されなかった時代に白人の母親が入院していた白人専用の精神病院で生まれ、実母に育てられることもなく里子に出され、やがて孤児院に入るといところから始まり、母親のような運命を辿るかもしれないという予感に悩まされながらも、以後人種差別、性差別、性暴力、そうしたことから来る精神異常、そして絶えずつきまとう極度の貧乏と人生のあらゆる辛酸をなめる過酷な運命と格闘し続けた壮絶な人生を強いられる。

しかしキリスト教にもとづく学校教育を受けたベッシーは18歳で小学校教師となる。ヒンズー教に入信するが、すぐに矛盾を感じ、教師までもを辞め、ジャーナリストとなり白人政府によるアフリカ人虐待を直視せざるをえなくなり、小説を書こうと決意する。ジャーナリストで同じくカラードの男性との結婚、出産というベッシーの人生で最も幸せな時もあったがそれもつかの間のことで、夫の仕事で別居、離婚となると、また一人で子供を育てながら、生活する場を求めて精神異常をきたすほど神経をすり減らす生活が始まる。作家としての評価が外国で高くなっていっても、亡命先のボツアナでは土地の民族語が分からなくて人々と馴染めないでいるベッシーがいる。孤独と差別と貧困は絶えず情け容赦なく彼女を襲ったのである。しかしアフリカの女性の実態を描き出すということが現実を変革することにつながるという強い信念で、肝炎のため47歳という若さで亡くなるまで、アフリカ人の語り部となって書き続けた。

「自分という一人の人間でありたい」という人間として当たり前のことを願うことすら難しかったベッシーが男対女という思想を持つのではなく、「男と女を切りはなして見ない。全世界の思想に関わる作家として、自分の作家活動を行う」と考えるのは当然の帰結だろう。しかし地元の人々からは疎外され狂人扱いを受けていく。その過程がこの評伝では情熱を持って書かれている。それはベッシーが一人特異なのではなく、「ごく普通の人間でありたい。私はどこの誰とも同じ人間なのであり、当惑し、うろたえ、絶望的になったりもする」と言うベッシーを、どこに住んでいようが女性は同じような問題を抱えて懸命に生きているのだという著者の強い共感がこの本を支えているからだと思う。

岩田典子(大学教員)

上記の書評欄への投稿をお待ちしています。女性の目で見直した鋭い批評や、視点を変えたユニークなものをお寄せください。1200字前後です。掲載させて頂いた方には薄々謝、進呈致します。

「あなたの情報・私の情報」とコラム「わたしの推したいこの一冊」は、知って欲しい本、ご意見・情報交換等に御利用ください。400字以内をお願いします。但しこれらの欄は、薄々謝も差し上げられません。ご了承下さい。

尚、ご投稿は会員に限らせていただきます。

宛先は

〒604-0024 京都市中京区下妙覚寺町185-804

松香堂書店「ウイメンズ ブックス係」です。

次号の締切は 1999年10月20日。

たくさんのご投稿をお待ちしています。

※次号は1999年11月25日発行の予定です。

編集後記

- ジェンダーと名づけて男が書く本が増えてきた。フェミニズムが制度化されたということか。売れセンをねらう出版ではなく、もっと女のいいたいことを書かなければ。女のための女性史が待たれる。残暑お見舞。ご自愛のほど。(やぎ みね)
- 均等法改正でセクハラは「雇用管理上の配慮義務」の対象となり、早速、対応するための手引書がどっと出た。今まで何の対策もとってこなかった企業もとりあえず本を読む気になってくれれば前進か?
- 企業必見ビデオ「セクシュアル・ハラスメントー知っておきたいルールと知識」福島瑞穂監修(25000円+税 オフィス・ワン発行)ご注文受付中。ご利用の程を。